

勝山市総合教育会議議事録

日時 令和8年3月23日（月）午後2時～4時

場所 勝山市役所 第1・2委員会室

1. 開会
2. 市長あいさつ

○市長

平素より市の教育行政にご尽力いただき、この場を借りて感謝申し上げます。

市では、本来教育委員会が持っている事業の一部を市長部局に移し、市長部局が持っていた事業の一部を教育委員会部局に移すといった事を行っている。この会議を通じて、皆さんから忌憚のないご意見やご指導をいただければと思っている。

市の出生数に関しては、一昨年が76名、昨年が86名、今年も80人台となる予定で減少が続いている。その中で出生数の減少に歯止めをかけたい、また子どもが少なくても子育てしやすいまちを作り、勝山を次世代へつなぎたいという思いから応援金115をはじめとする115プロジェクトを通して、子どもたちの育ちの支援を行っている。4月からは国の予算成立に関わらず、小中学校の給食費の完全無償化を開始する。あわせて保育園、認定こども園の副食費に関しても実質無償化の準備を進めている。こういったことを進めることで、0～18歳にできる市の支援はほぼ充足しつつある。教育環境のハード面に関しては、勝山中学校の開校に向けた建設工事を進めている。スクールバスの議論も進めており、素晴らしい学校を目指して取り組んでいきたい。

教育会館の改修に関しては、実施設計が上がってくる段階。子どもたちの学びの場、育ちの場として活用できるよう、中央公園も一体的に活用し、社会教育の場として市民会館の改修も今後計画している。

先日、最後の公立園である成器南幼稚園の閉園式を行い、市が直接行う未就学施設の事業は無くなったわけだが、今後さらに就学前の子どもに対する事業を行う準備を進めていくので、会議の協議事項の他、そういった事に対してもご意見をいただきたい。

3. 協議事項

- (1) 教育に関する大綱（令和3年度改訂）の取組状況等について

○事務局

資料1に関して、今年度の各取組に対して委員の皆様からご意見などはございませんでしょうか。

1 学校教育

○委員

新しい中学校に向けてハード面の進捗は理解したが、カリキュラムなどの中身の件につ

いてはどのような進捗になっているか。

○教育長

中高一貫教育推進協議会の中で教育課程や進路指導、生徒指導といった部会を持ち、教育内容等についても現在検討しているところ。説明できるようになる段階にはもう少し時間がかかるが、まとめれば、市民の皆さまを含めて周知をしていきたいと考えている。

○委員

6ページの「学力向上支援のために、今年度も教育会館に勝高自習室を開設し多くの生徒が利用した。」という一文にグッとくるものがある。なぜかと言うと、7～8年前に奥越の高校再編に関する協議が持たれた時、勝山市は非常に危機感を持っており、私も緊張感をもって会議に臨んだ。勝高関係者は、何とか存続したい気持ちで、隠岐の島を例に公立塾の運営を提案した。その代わりに市から教育会館の学習室を提案してくれ、それが現在も続いている。勝山高校に関しては、進学の状態も良くなり、また、ひびき寮が新しくなり、探究学習に対する市への支援も素晴らしい。桜プロジェクトも進み、風光明媚な場所にすばらしい学校があると思うと嬉しい。こういった成果が現れたと思ったのが、勝山高校の入学者がここ数年ずっと定員割れが続いていたのが、今年はほぼ定員に達したと新聞記事で見た。これまで勝山高校の魅力アップについて、県立だからといって県に任せず、市も一緒に取組んできた結果だと思った。

○委員

勝山高校を選ぶ学生が増えたということが市の取組みに繋がっていることの把握ができたら良いと思う。実際に学生の意見は把握されているか。

○教育長

直接声を聞いているわけではないが、勝山高校の志望者が増えているのは事実で、福井市の高校を目指す子どもが減ったと聞く。勝山高校の探究で勉強したという子どもが増えたのだと思う。

○委員

中学校の再編に関しては、もともとは小中学校のあり方検討委員会の中での方針があり、その中には小学校の再編の協議も入っていた。経過の中では、中学校を先に再編し、小学校は各地区からの要望があった際に進めて行くという話だったと思う。他市の状況を見ても、学校の統廃合が進んでおり、勝山市でも複式学級が増えている。子どもの数が少なくなっていると、地元からの要請を待っていると、なかなか進まないのではないか。それが子どもにとって良いことなのか。市としてイニシアティブを取って進めていくことも必要だと考えるが、今後どのように進めていくのか考えがあれば教えてほしい。

○教育長

市内の小学校の人数規模でいうと、統廃合の規模になってきている。現在としては、まずは新中学校を開校し、その後に小学校の議論に入っていけないと考えている。野向地区では小学校のあり方を議論し、3月下旬に市としての返答をしたところ。それが他の地区に広がっていくと、動きが出てくると思う。ただ今は中学校を開校した後に考えていきたいと思っている。

○委員

不登校の防止について、不登校の原因や状況は一人ひとり違い、その対応に関しても段階に応じて変化していくと思う。最近、福井市のフリースクールが営業を閉じるという記事を見た。家、学校以外の居場所がないのは、保護者の負担が大きくなるのではと感じた。子どもも保護者もいつでも相談できる場所があると保護者の負担が軽減するのではないか。不登校の回復期に何が必要なのか判断は難しい。学校は日常的な枠組みで、取りこぼしたことを回収するのは難しい。長い目線でキャリアを形成できる支援体制があったら良いと思う。

○教育長

校内にサポートルームを設置したり、学校内での居場所づくりは進めてはいるが、それは学校教育の枠組みの中の話。民間での対応は難しい。青少年センターにおいても不登校の支援や、不登校の保護者の交流事業を始めている。そういったところが居場所の一つになれば良い。一人ひとり抱えている問題が違うので難しいが、保護者の声も聞きながら進めていきたい。

2 生涯学習・地域活動

○委員

友楽喜の貸し館事業は当初3月末までと言っており、それが5月末、11月末と次々変更したのは利用者の説明会で言われたからか。

○未来創造課長

当初は3月末で移転という話だったが、それを説明したのが2月で、急すぎるので議会の中で一旦5月末まで延期するという話になった。それを含めて利用者に説明会を行ったところ、一つの団体から10月の文化祭が終わるまで施設を使わせてほしいという声があり、それを受けて最大11月末まで貸し館事業は行う事になった。多くの団体は移転の準備をいただいているので、今晚、確定の説明会をする予定である。あくまで事務局は予定通り3月末に移転、団体の利用についても基本的には3月末で、最大11月末までということで理解を得ていきたい。

○委員

話が2転3転した印象があり、皆さんの意見を尊重いただいたのは良いが、まずは話を聞いてから結論を出した方が良かったのではと思った。

○委員

市民総合大学は魅力的な講座があるのは知っているが、録画配信やアーカイブ配信が充実すると良い。今後そういったコンテンツ作りも進めていただけるとありがたい。

○未来創造課長

ご意見を参考に、今後のニーズに合わせた開催方法について課内でも協議していきたい。

○市長

市民総合大学はウェブ開催も視野に入れて、講師を招くような講座に関しては、全まちづくり会館で同時配信できる方向で考えている。

○委員

生涯学習人材バンクは39名の登録があり、今年度は9名の利用実績しかないが、数年間一度も利用がない講師もいるのではないか。

○未来創造課長

人材バンクの利用は低下しており、実績のない講師も相当名いる。現在の登録講師の確認や事業の利用促進も検討して実施していきたい。

○委員

この事業があることを知っている人は限られている。もう少し制度の周知やPRをしないと事業が下火になってきてしまうのではないか。

○市長

事業が形骸化していることは事実で、年に1度名簿を更新したり、人材バンクに登録がある人を優先して市民総合大学講座に活用するなど配慮しているのであれば良いが。配慮がないのであれば人材バンクの意味があまりない。庁内でもリストを共有し、様々な団体でも活用してもらうように。また、周知に関しては、広報を使ってしっかりPRをすること。活用されていないのはもったいない。ジャンルごとに名簿の整理をして、落ちているジャンルを補充したりすることも必要。

○委員

さわやか大学の開催は火曜日に固定しているが、今は70歳まで働いている人も多いので、土日開催も増やして良いのではと思う。かといって参加者が増えすぎて困るのであればこれまで通りでよいが。

○委員

さわやか大学の講座がある火曜日の午前中は、市役所の駐車場がなくて一般利用者は困っているのではないか。せめて市役所の正面は空けてもらうようにしてはどうか。

○未来創造課長

さわやか大学は自主的に運営していることもあり、開催曜日に関しては運営者に伝えたい。駐車場については今後、生涯学習センター利用者も含めて不足することが予想されるので、今年度は職員が現在駐車しているスペースを空けるなどして対応したい。

○市長

今後、中央公園の旧ゲートボール場を駐車場にすることも検討して配慮していきたい。

3 歴史・文化

○委員

旧木下家住宅の活用については、昨年の総合教育会議で質問していたので、今回資料を見て充実した行事をしており嬉しく思った。

白山平泉寺旧境内の整備について、昔は整備指導委員会がありまほろばの建設や南谷の整備をしてきた。今は調査整備指導専門家会議を新たに設置していると思うが、その中で今後の平泉寺の整備・保存に関してどのような形で行う方向性であるのか。

○中村課長

専門家会議において整備内容を諮りながら事業を行っている。門、土堀や南谷の整備を進めているが、令和6年度から調査開始しており、新たに発掘された箇所について、令和8年度は見学路と水路整備を行う予定。

○委員

専門家会議では現在どのような方で構成しているのか。

○商工文化課長

平泉寺区長、市民代表の方、福井大学名誉教授で歴史学の専門家、元一乗谷朝倉氏遺跡館長で建築学の専門家、奈良大学教授で考古学の専門家の5名で構成している。

○委員

今後、ジオパークという言葉は使えないのか。

○未来創造課長

退会後は使えない。民間で設置していただいた看板を早急に取り必要はないのだが、更新の際に順序、言葉やロゴマークを取ることをお願いしている。

○委員

平泉寺白山神社の三十三式年祭は、次回は33年後ということになると思うが、マニュアル等は残しているのか。

○商工文化課長

今回行った内容に関しては資料をしっかりと保存し残しておく。片瀬の佛母寺は映像を残しているようなので、そういった資料を活用していきたい。

○委員

今回の式年祭では、お土産品が不足しているという声をたくさん聞いた。33年後に観光業がどう継続しているか分からないが、そういったところも改善されると良いと思った。

○委員

新聞で左義長まつりの三味線を市外の方が弾いている記事を見た。とても良い取組みだと思った。こうした市が地区と希望者をつなぐ取組みは以前から実施していたのか。

○未来創造課長

毎年お囃子講習会を実施しており、市の広報やHPで市内・市外問わず参加者の募集を行っていたが、これまで市外の方の参加者はなかった。今回県の補助事業を使い、オマツリジャパンという会社の協力を受け、募集の際に会社のSNSを利用して市外に向けて発信したところ、市外からの参加者が何名かいた。遠くからは大阪から参加した人もいる。その中の一人が今回最後まで講習を受けられ、地区とのマッチングができ、当日の参加につながった。

○委員

左義長まつりの担い手という面では、成器西小学校の西の子左義長の取組みが大きいと思う。祭り当日も子どもたちの姿が非常に良かった。

○市長

大綱の作り込みの問題だが、伝統文化や文化財の中に、文化・芸術が埋もれてしまい、内容がかなり薄くなっているような印象を受ける。伝統文化、文化財、歴史の他に市民の文化活動や芸術活動の取組みに関して、もっと見える化をしていった方が良い。

○委員

サークル活動というのは、大学のイメージが沸くが、今の人は集まって何かをするという経験がない。どうやってサークル活動をするのか教えてほしい。

○市長

音楽やスポーツ、社会教育から発展してサークル活動となる場合が多い。まちづくり会館や市民交流センターでの活動に期待したい。そのためにはそれぞれがサポートしていく必要がある。

○委員

ゆめおーれが行っている夢コンといった事業も、取組みに表れてくると良い。地元の音楽家を育てるという観点からも良い。

○市長

ゆめおーれで行うから文化財の活動に捉えがちだがそうではない。また旧木下家住宅で行うから文化財の括りではなく、若者の活動を支援する取り組みのひとつである。そうした取組みが埋もれてしまっている。この大綱の作り込みの問題と担当課の意識の問題。来年度の予算として、旧木下家住宅でのグループへの支援を増額したり、ゆめおーれへの音楽事業に対する補助金を出す、そういった事に関して取組みを記載するところがないので、次期大綱では改善したい。

健康スポーツ・新たな感染症対策

○委員

ジオアリーナのトレーニングルームやランニングルームを利用するが、現在は受付時に

名簿に手書きで行っており、これをデジタル化すると、より利便性が高くなるのではと思う。

また、ジオアリーナの定期券を購入しているが、冬場の空調費を別途毎回支払わないといけないのが煩わしく感じる。

○竹生課長

より利便性が上がるように検討したい。

○市長

受付業務については、他市の研究をしながらマイナンバーカードの活用を考えてほしい。この分野に関しても、社会体育の取組み内容が薄い印象を受ける。体育協会の様々な活動やFUKUI ユナイテッドとの提携、ブローウィンズとの連携などの取組みが全て落ちている。教育委員会から委託を受けている社会体育の部分が薄いと思われるのでは。

中学校のスポーツの地域展開についてもしっかり書き込んでほしい。内部の議論では、中学校跡地に体育施設の活用も出ているが、それにつながるように。次年度、大綱の改正が予定されているが、全体の政策が見えるようにしてほしい。

(2) 勝山市学校授業改善計画について

○事務局

資料2に関して、委員の皆様からご意見などはございませんでしょうか。

○市長

業務の3分類の中の「学校以外が担うべき業務」と「教師以外が積極的に参画すべき業務」に関しては、市長部局も一緒に考えてサポートしていく必要がある。この部分については、教育委員会で決定した後、市長部局にフィードバックした方が良い。

(3) 教育に関する大綱の改定について

○事務局

資料3に関して、委員の皆様からご意見などはございませんでしょうか。

○市長

教育委員は学校教育のことはよくご存じである。この会議で議論するのは、教育委員会から市長部局へ委任を受けている事業について、教育委員がよく把握できるようにする必要がある。教育委員が安心できるように、委任をして良かったと言えるように大綱を作り込んでいく必要がある。

○委員

昔の組織の時は、教育委員も色々なイベントに参加させていただいたが、事業が移管してそういったイベントに参加しなくなり、見えてこなくなっているかもしれない。事業を全部網羅するのは難しいが、よろしくお願ひしたい。

(4) その他

○事務局

その他の事項に関して、委員の皆様からご意見などはございませんでしょうか。

○委員

今年はインフルエンザが流行し、学校や家庭内でも蔓延し大変だった。そんな時、小児科の発熱外来の枠がいっぱいと言われ受診できないことがある。休日外来もあるが、普段行き慣れない病院だと行きづらいし、高熱の子どもを連れて往復1時間以上かかる病院へ行くのも、かなり負担である。流行時だけでもすこやかで小児の対応していただけることは可能か。

○こども課長

小児科に関しては医師の確保が難しく、夜間や休日に関しては県の子ども急患センターで対応している。小児科を維持していくためには、ある程度集中化が必要で、すこやかで対応するのは難しい。本当に救急で行く必要があるのかという相談ができる電話番号があるので、それについても活用を促進していきたい。

○市長

子どもの数が減ってきてはいるが、小児科医に負担をかけたり、市で医師を抱えこむことはできない。ただ、今年は特にインフルエンザの流行がひどかったので、予防接種は任意とはいっても、推奨の方法を考えたほうが良い。

○委員

3月定例会の市長の招集挨拶で、子育て政策において、子どもの転入数が転出数より多かったと聞いた。転入者アンケートでは勝山の子育て支援策が良いという結果もあったようで、この時代、子どもの転入が増えるのは画期的なことで、1人でも2人でもありがたいこと。ふれあい人口も大切だが、定住人口が増えないことには根本的な解決にはならない。恐竜学部生が居住してくれるのは大切なことだと思う。

令和7年度の新規予算の一つに、東京圏の大学生が福井県内で就業した場合、就職活動に係る交通費と移転経費の2分の1を補助、さらに就業先が勝山市の場合は追加で補助といった事業があったと思うが、この制度でどれくらいの利用があったのか。インターネットを見ていると、東京23区から市内に移住・就業した人に対し移住支援金を交付する制度があると思うが、支援金の対象が学生から東京23区の社会人変わったということか。

○商工文化課長

移住支援金に関しては、東京圏の大学生が福井で就職活動した際に交通費の支援を制度

化したが、令和7年度の利用者はなかった。東京圏で就職し戻ってきた人への補助金についても設けており、その他市外・県外からの移住者に対する補助金も段階に応じて設けている。

○委員

制度があることは承知しているが、成果が表れないことには意味がないと思う。移住政策は大切なことだが、ただ制度を並べるのではなく、これをいかにPRし活用したもらうのが重要。活用がないのであれば他の施策を考えていかないといけないと思う。活用がない新規施策ではさみしい。東京一極集中を地方へという国の施策の一つだとは思いますが、それならそれに乗っかって、成果を上げられるような施策を考えていただきたい。

○市長

学生への周知はどのようにしたのか。今は市も勝山高校と密接に連携をとっているので、勝山高校から在住の卒業生に送ってもらうなどしてはどうか。

○商工文化課長

周知方法としては、勝山市20歳のつどいでチラシを配布したほか、福井県が大学生に案内するシステムがあるので市町村のチラシも一緒に送っている。

○市長

勝山高校と一緒に組んでやってみればよい。市の広報でも掲載して親の目にも届くように周知してはどうか。

4. 閉会あいさつ

○委員

勝山市街地方面に来る時、九頭竜川左岸側から真っ白な残雪の白山が見え、つい車を停めて写真を撮る。すると恐竜博物館が見え、その横にクレーン車が見える。おそらくリゾナーレ福井の建設中のクレーン車だと思う。道の駅には宿泊施設が新しくできると聞く。そして来年の春には勝山中学校が開校し、素晴らしい文教施設ができる。白亜紀ダイナ荘には10人の大学生が、勝山高校のひびき寮には24人の高校生が市外から勝山に居住する。勝山にも新しく34人の若者が入り、わくわくする躍動する勝山を感じる。今回、教職員の勤務時間の話があったが、市の職員はどうかと思う。少ない人数の中、沢山の仕事をしていることに感謝しながらも心配している。皆さまには元気で、躍動する勝山をさらに強くしてくださることを期待したい。